



総合交通メールマガジン 第4号

平成20年10月30日発行

発行元：国土交通省 政策統括官付 川西参事官室

目次



Topics

- ・スクールバスの活用状況について
- ・「自律移動支援プロジェクト」の取組について



地域の取組紹介

- ・三重県鳥羽市
- ・兵庫県三木市



Information

- ・10月1日、観光庁が発足しました。
- ・「地域の自立的発展のためのモビリティ確保に向けた検討の手引き」に関するアンケートの集計結果
- ・総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！
- ・地域の取組募集！！



編集後記

Topics



スクールバスの活用状況について（文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課）

文部科学省では、通学路における事件事故が発生する中、地域の実情に合わせたスクールバス（路線バスの活用を含む）の活用が登下校の安全確保のための一つの有効な手段であることから、国内の小中学校及び諸外国におけるスクールバスの実態を調査し、今後の地方公共団体における検討の参考とするため、「国内におけるスクールバスの活用状況等調査報告」及び「諸外国におけるスクールバスの活用状況」を取りまとめました。

【趣旨・調査内容】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/mext-schoolbus0810.pdf>

【報告書等掲載ホームページ】（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/12/05120900.htm

「自律移動支援プロジェクト」の取組について（国土交通省 政策統括官付 参事官室）

「自律移動支援プロジェクト」については、これまでのメールマガジンで、プロジェクトの概要、委員会の開催についてご案内したところですが、プロジェクトで用いているシステム「自律移動支援システム」については、実証実験を行っていない自治体等の方々にとって、なかなかなじみのないものかと思います。そこで、今回はこの「自律移動支援システム」の概要についてご紹介します。

自律移動支援システムは、ITを活かした最先端のユビキタス技術を活用しています。具体的には、「〇〇の交差点」、「△△の出入口」などあらゆる「場所」に、固有の識別番号「場所情報コード」（場所情報コード自体は、意味を持たない単なる数字の羅列です。）が格納された電波マーカやICタグ等（これらを「位置特定インフラ」と呼んでいます。）を整備します。利用者は、携帯端末を用いて、位置特定インフラから場所情報コードを取得し、その場所情報コードに関連づけられた、その場所や利用者の身体的状況に応じた情報を、インターネット等を介してデータベースから入手することができます。システムの概念図については、下記URLをご参照下さい。

【システムの概念図】

URL：<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/jiritsu-system.pdf>

自律移動支援プロジェクトでは、こうしたユビキタス技術を活用して、主に障害者や高齢者の移動案内の実用化に向けた検討を実施していますが、位置特定インフラ（正確には場所情報コード）に観光情報に関連づければ観光案内が、施設管理情報に関連づければ施設管理業務の効率化が図られるなど、複数の目的に活用が可能なシステムです。

「自律移動支援システム」についてご興味がありましたら、お気軽に参事官室までメール（soukou@mlit.go.jp）でお問い合わせ頂ければ幸いです。

☆「自律移動支援プロジェクト」の取組の詳細については、下記URLをご参照下さい。

URL：<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/jiritsu/index.html>

地域の取組紹介

三重県鳥羽市

地域の利便性向上のためにスクールバスを活用している事例として、三重県鳥羽市より「スクールバスの地域住民の交通手段としての活用」と題して紹介頂きます。

鳥羽市では、スクールバスを、朝夕の通学時間帯以外は地域住民の交通手段として活用しています。運行に当たっては、業務委託による経費節減や安全確保に留意したルート設定等の工夫をしています。

【鳥羽市の取組】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/toba-mie0810.pdf>

鳥羽市役所ホームページ：<http://www.city.toba.mie.jp/>

兵庫県三木市

スクールバスとコミュニティバスが連携している事例として、兵庫県三木市より「スクールバスとコミュニティバスの連携について」と題して紹介頂きます。

三木市では、地区住民の意見を聴いた上で運行ダイヤを決定したり、他路線との円滑な接続に留意することで、地域住民の利便性向上に寄与しています。

【三木市の取組】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/miki-hyogo0810.pdf>

三木市役所ホームページ：<http://www.city.miki.lg.jp/>

Information



10月1日、観光庁が発足しました。（観光庁 総務課）

観光立国の実現が、我が国の21世紀の国づくりの柱となるものとして、国の重要な施策に位置づけられている中で、国全体で官民を挙げて観光立国の実現に向けた施策を総合的かつ計画的に推進するための中心となる組織が必要と認識され、国土交通省の外局として、「観光庁」発足に至りました。

観光庁の施策や観光関係の統計情報、資料等は、以下の観光庁ホームページをご参照下さい！
また、観光庁では、メールマガジンを発行し、観光行政に関する情報を随時お届けしています。
(観光庁ホームページの「観光庁メールマガジン配信サービス」から手続きできます。)

URL：<http://www.mlit.go.jp/kankocho>



「地域の自立的発展のためのモビリティ確保に向けた検討の手引き」に関するアンケートの集計結果（国土交通省 政策統括官付 参事官室）

今年の6月末から7月にかけて配布させて頂いた「地域の自立的発展のためのモビリティ確保に向けた検討の手引き」のアンケートにご協力頂きありがとうございます。平成20年10月29日までに121件（回収率：約6%）の回答を頂いています。現時点での集計結果をご報告します。下記URLをご参照下さい。

URL：

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/anketo-shuukei0810.pdf>

総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

総合交通メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえて内容を充実させていきたいと考えています。どのようなことでも構いませんので、ご意見等頂けると幸いです。様式、送付先については、下記URLをご利用下さい。

URL：<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/iken-merumaga.xls>

地域の取組募集！！

当室では、情報提供頂いた取組をメールマガジンで紹介することにより、各地域でノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取組について情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。

【情報提供頂く内容】

例えば、

- ・ 低炭素社会の実現に向け、モビリティのあり方を見直す取組（交通の再編等）
- ・ 公共交通の利便性向上を目指した取組
- ・ 交通の改善により地域活性化を図る取組 など

※ これまでに、北海道当別町、茨城県、滋賀県東近江市、岩手県盛岡市、福井県福井市、三重県鳥羽市、兵庫県三木市の取組を紹介させて頂きました。



今回のメールマガジンでは、ついに省庁をまたがった取組紹介として、文部科学省に執筆頂きました。また、各地の取組紹介においても、鳥羽市、三木市の教育委員会のご協力により執筆頂いています。ご多忙のところありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。総合交通メールマガジンでは、さらに幅広い情報提供ができるよう取り組んでいきたいと考えております。今後とも総合交通メールマガジンをよろしく願いいたします。

Informationにありますように、総合交通メールマガジンについての意見を募集しております。取り上げて欲しい話題など内容は問いませんので、ご意見等頂ければと思います。

さて、今回は参事官室のKさんが9月に中国の東北地方（旧満州）に旅行された旅行記を下記に掲載します。是非ご覧下さい。

- ・ 9月中旬に遅い夏休みを取得し、北京オリンピックの興奮さめやらぬ中国へ旅行に行ってきました。目的地は中国東北部の瀋陽、長春、ハルピン、大連。いずれも、戦争中には満州国に属し、日本やロシアなど諸外国の影響を受け、市街地が形成された都市です。(写真①②)
- ・ 現在のまちは、まさにモザイク模様。街並みや生活水準の違うまちが、同じ時代に共存しています。戦争中の建物をそのまま利用した庶民街、戦争後に建てられた中層の画一的なアパート、そして、郊外部に建てられた超近代的な高層マンション…。(写真③④)
- ・ さて、中国東北部の主な公共交通は、バスと鉄道です。(写真⑤⑥)
- ・ バスは、市内路線と都市間路線があり、市内路線はどこまで乗っても全区間1元(約15円)。路線は非常にわかりにくいですが、バスには必ず路線番号が記載されているので、駅などで売っている市内の案内図をたよりに行動すれば、大丈夫でしょう(おそらく)。
- ・ 鉄道は、日本の鉄道とは全く違うシステムです。何が違うかというと、
 - ― 座席は、基本的に全席指定(「無座」という立席券はある)。
 - ― 切符は、購入する駅発のものしか買えず、電車の乗り継ぎはかなり困難。
 - ― 始発駅以外の駅(途中の停車駅)発の切符は、割り当てが少なく買いにくい。
 - ― 切符の自動販売機は存在せず全て窓口販売のため、切符の購入には非常に時間がかかる。
- ・ このため、中国の鉄道システムは周遊型旅行には不適です。最近、某テレビ局で中国全土を鉄道で周遊する番組が放送されていましたが、あのような旅行は、かなりの労力を要するのです。
- ・ そんな中、中国にも、最新の鉄道が導入されました。その名は「動車組(CRT)」。日本で言う新幹線のようなもので、専用待合室も完備され、サービスも良いとのガイドブック情報。中国東北部でも、昨年、北京～ハルピン間で運行が開始され、所要時間が従来の約10時間半から約8時間となり、約2時間半も短縮!しかし、私は切符が入手できず、乗車できませんでした…。乗車された方の感想をお待ちしております。(K)

写真はこちら↓

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/k-picture0810.pdf>

【問い合わせ先】

国土交通省 政策統括官付参事官室 いそがわ メールマガジン担当 五十川、辻本

TEL : 03-5253-8111 (内線53-113、53-115)

FAX : 03-5253-1675

E-mail : soukou@mlit.go.jp

URL : <http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/index.html>

